

冷鍛順送加工による工法転換を強みとするプレス加工メーカー。従来のインフラ関連事業に加え、近年、特に進境著しいのが自動車部品事業。5年、10年先を見据えた設備投資や人材育成にも力がこもる。

株式会社木屋製作所

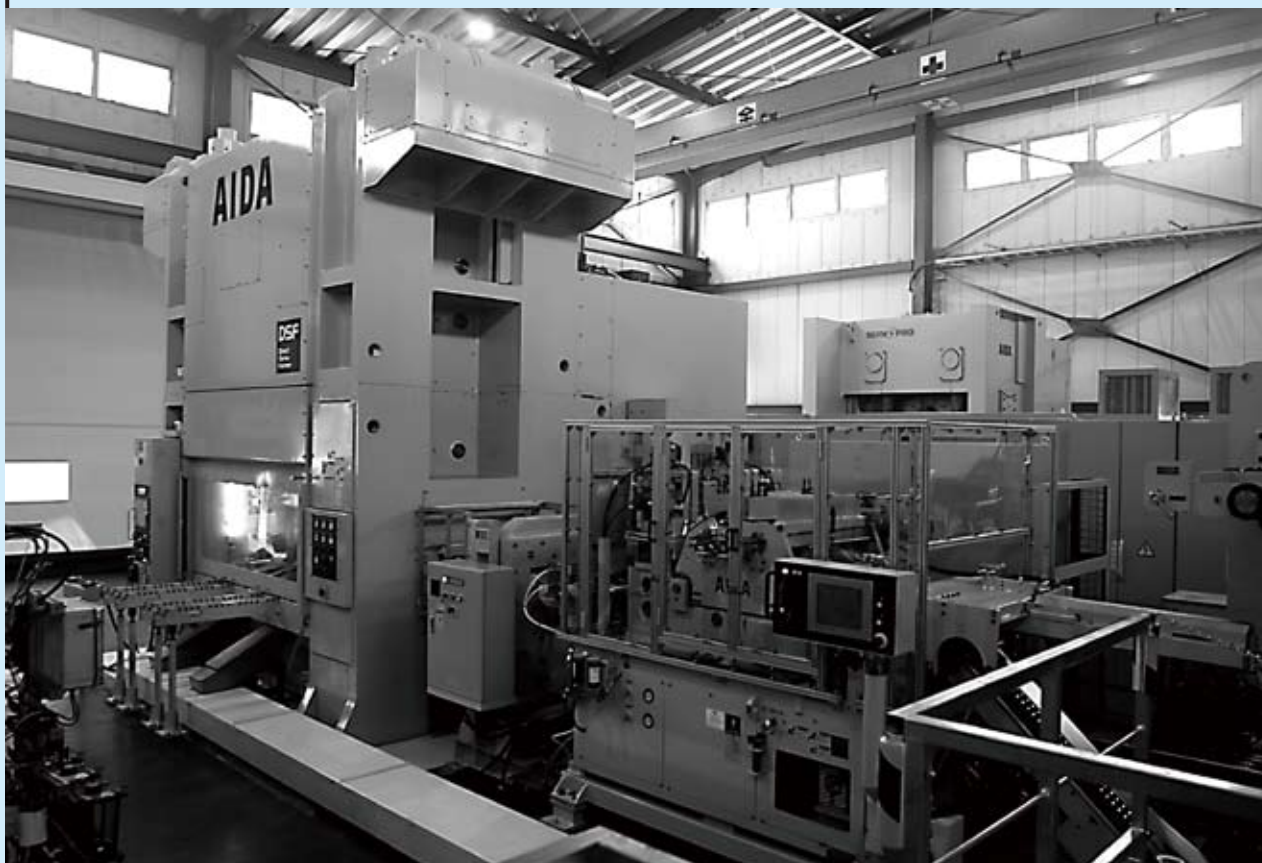
通信、電力向けプレス加工からスタート

(株)木屋製作所は、創業来の事業である電力、通信などのインフラ関連とモビリティ(自動車)関連を軸にMaaS(サービスとしての移動性)戦略を展開中のプレス加工メーカーである。創業は1946年で、当時の通信省から電線を吊るケーブルハンガーのプレス加工を受注したことに始まる。

その後、東京電力からも架線金物を受注し、1980年代までは通信と電力を2本柱としていた。その間、1970年には東京都練馬区の工場(現在の本社)が手狭にな

ったため東松山市に新工場を建設。それを機に家電メーカー向けの加工も始めるなど、高度経済成長の恩恵を受けながら社業は大きく飛躍した。一時は多数の従業員を雇用し、家電製品の組立も行っていった。

しかしその後、日本経済は減速し、同社のインフラ事業や家電事業に陰りが見え始めた。それに危機感を募らせたのが1996年の創業50周年を機に3代目の社長に就任した横山寛氏(2022年度から代表取締役会長兼社長となる)である。そして家電事業から手を引くとともに、次世代のプレス技術として冷鍛順送加工に着目し、その技術を用いて、新たに自動車部品分野に参入することを決めたのである。



▲ ULのサーボ駆動機 DSF-U1-6000と送り装置LFH-600(コイル幅600mm・板厚2.0~9.0mm)